

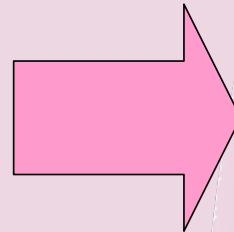
「食」とは

栄養補給

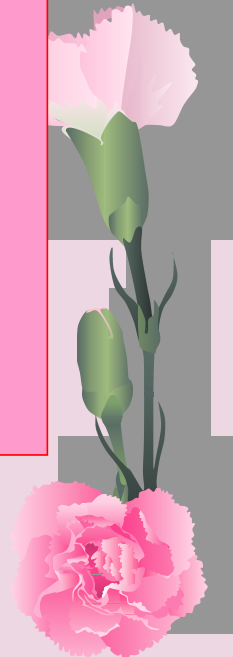
- ・ 生命の維持
- ・ 健康や体力の維持
- ・ 病気の健康管理

生活活動

- ・ 調理や団欒
- ・ 社会交流
- ・ 買物や外出

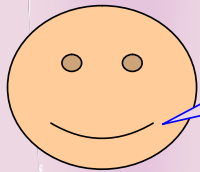


「食」から「食生活」へ



食べることで活性化

内臓への刺激



ご飯ですよ

唾液の分泌 内臓が目覚める

五感の刺激

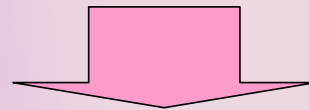
視覚・・・目で見て楽しむ

味覚・・・味わう

聴覚・・・噛む音や食器の音を聞く

臭覚・・・料理の匂いをかぐ

触覚・・・温度や硬さを確かめる



脳の活性化



認知症になると・・・

記憶の障害

* 出来事そのものを忘れてしまう

見当識の障害

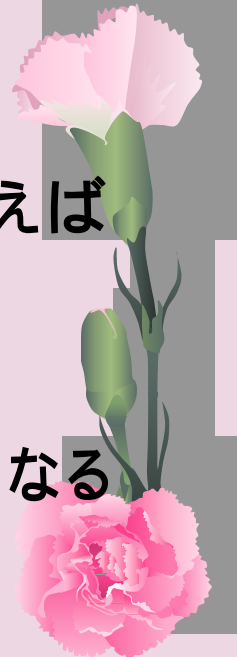
・失行・行為の障害

・失認・認識の障害

* 何をどのように使い、その行為をどのように行えばよいのかが分からなくなる

判断力低下

* 今、何をすべき時間なのかの判断ができなくなる

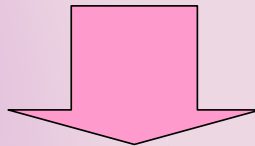


症状の理解

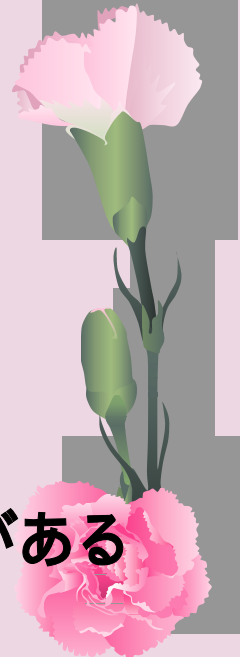
共に生活するなかでの様子の観察

(例)

- ・食べた直後にまた食事を欲しがる
- ・食事中に立ち上がる
- ・食事を食べようとしない
- ・食べ物以外のものを口に入れる など



よく見られる行動のなかに食に対する「サイン」がある



症状への対応

- ・症状の理解

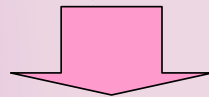
認知症を理解し、叱ったり、注意はしない

- ・無理な食事介助はしない

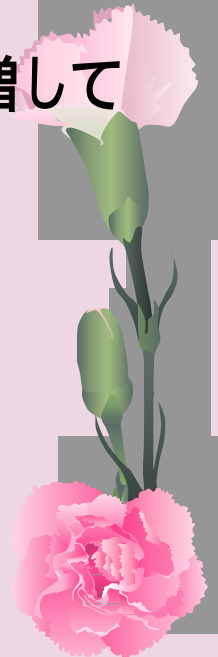
無理やり介助をすることでさらに混乱・不安が増してしまう

- ・脱水に気をつけること

認知症の悪化につながる



自分で食べることの援助を！



記憶への働きかけ

五感を刺激する

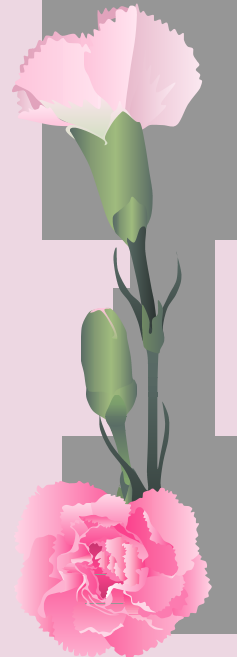
- ・一緒に作る
- ・彩に気をつける
- ・嗜好品を取り入れる

使い慣れたものを取り入れる

- ・箸、茶碗、コップ など

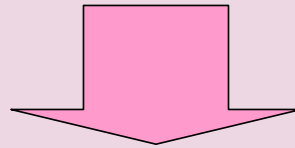
食卓をみんなで囲む

今までの生活や食習慣を大切に



まとめ

共に生活すること 食行動の障害に気づく



「思い」について考える

記憶への刺激

環境・食器・食事作りの過程など

「以前の生活を呼び起こす」

自分で食べることの援助を！

